



株式会社 吉本

YOSHIMOTO Co., Ltd.

森と共に未来をつなぐ

～森林認証の取り組みと課題ついて～

令和5年2月27日

株式会社 吉本

専務取締役 由井 正宏

（ご説明の流れ）

- ・ 会社紹介
- ・ 主要国における森林認証の状況
- ・ 現状と今後の課題
- ・ 取り組みと事例紹介

『会社概要』

創業：明治20年

本社：長野県南佐久郡佐久穂町

事業所：群馬県上野村、岩手県岩泉町

グループ会社：大岳キャビネット工業(有)

営業品目：木材生産、造林、林業土木、製材、木製品製造(家具など)、
その他（不動産、観光農園）

社員数：現場 39名 、事務 8名

R2年作業実績：素材生産（間伐、皆伐）23,500m³/年
造林 130ha/年、再造林実施率75%
原木取扱量（R2.4.1～R3.3.31）25,000m³(佐久本社のみ)
取り扱いの内カラマツは約8割

企業理念

自然と人間は共生しており一体である

我々は、森林の総合的利用に努め、

豊かな森林の育成を通して社業の発展と

社会に貢献することを使命とする



株式会社 吉本

YOSHIMOTO Co., Ltd.

since 1887

行動指針

挑戦——情熱と熱意を持って積極的に挑戦する

自主——自己の責任を自覚し誠実に自主的に行動する

信用——信用を大切にし誇りと感謝の心を持って行動する

和——チームワークで活力あふれる職場にする

社有林管理

全国に約 6,000 ヘクタールの森林を所有し管理しています。

岩手の社有林は、FSC 森林認証を取得しています。



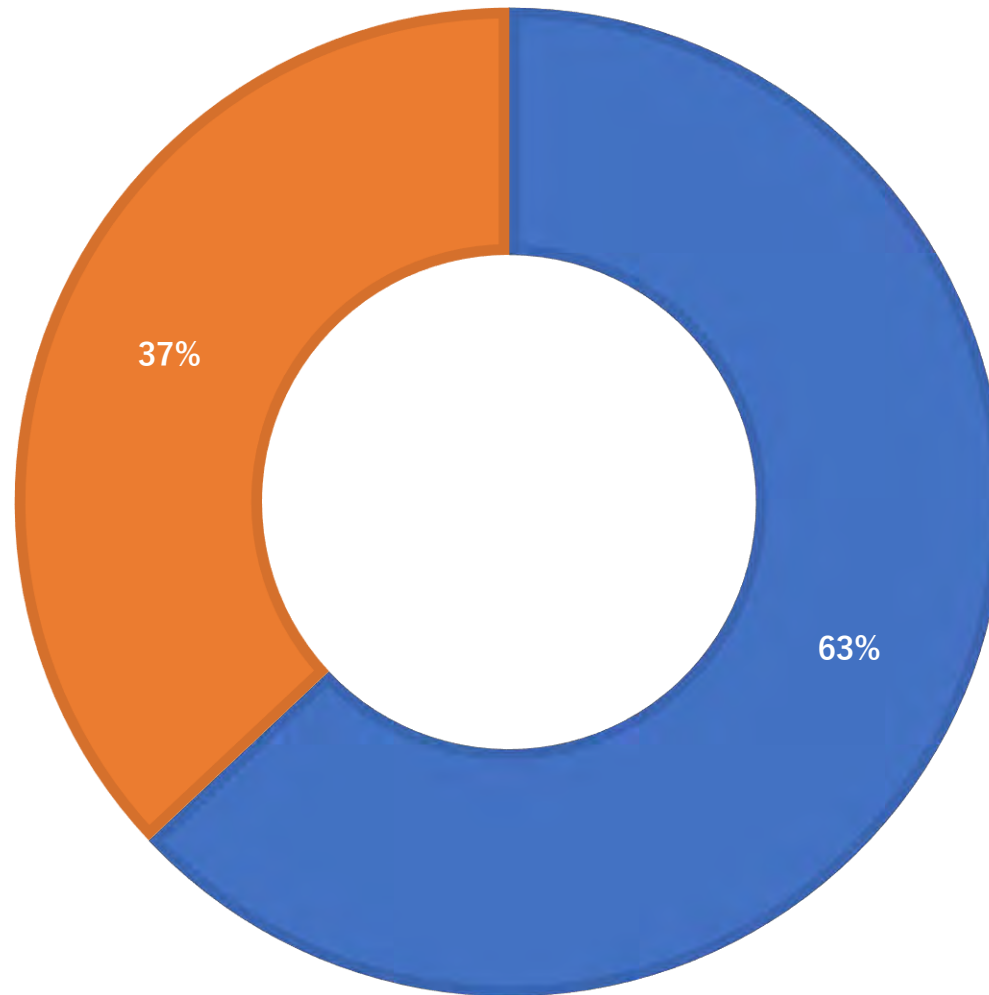
当社所有の社有林



R 2、出荷内訳（佐久本社のみ）

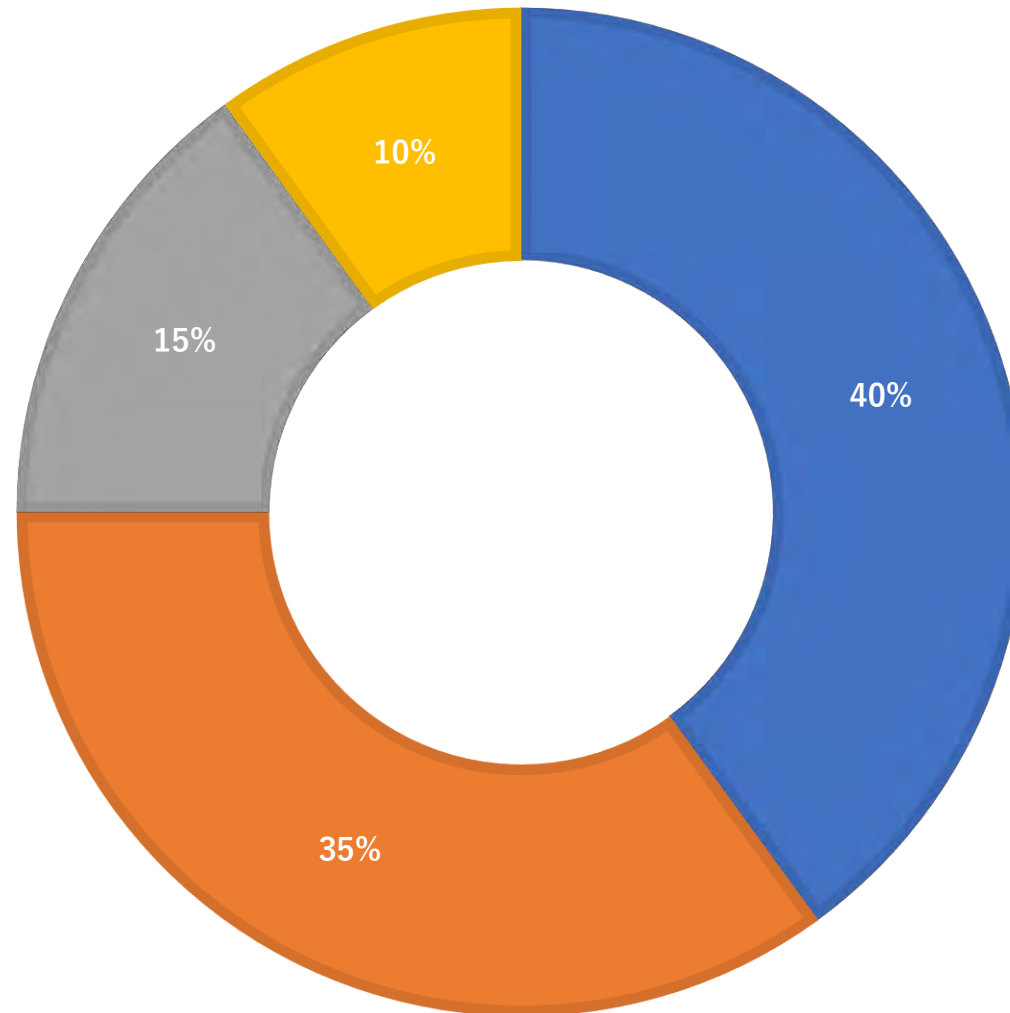
■ 県外

■ 県内



R2、出荷丸太の品目別内訳(佐久本社のみ)

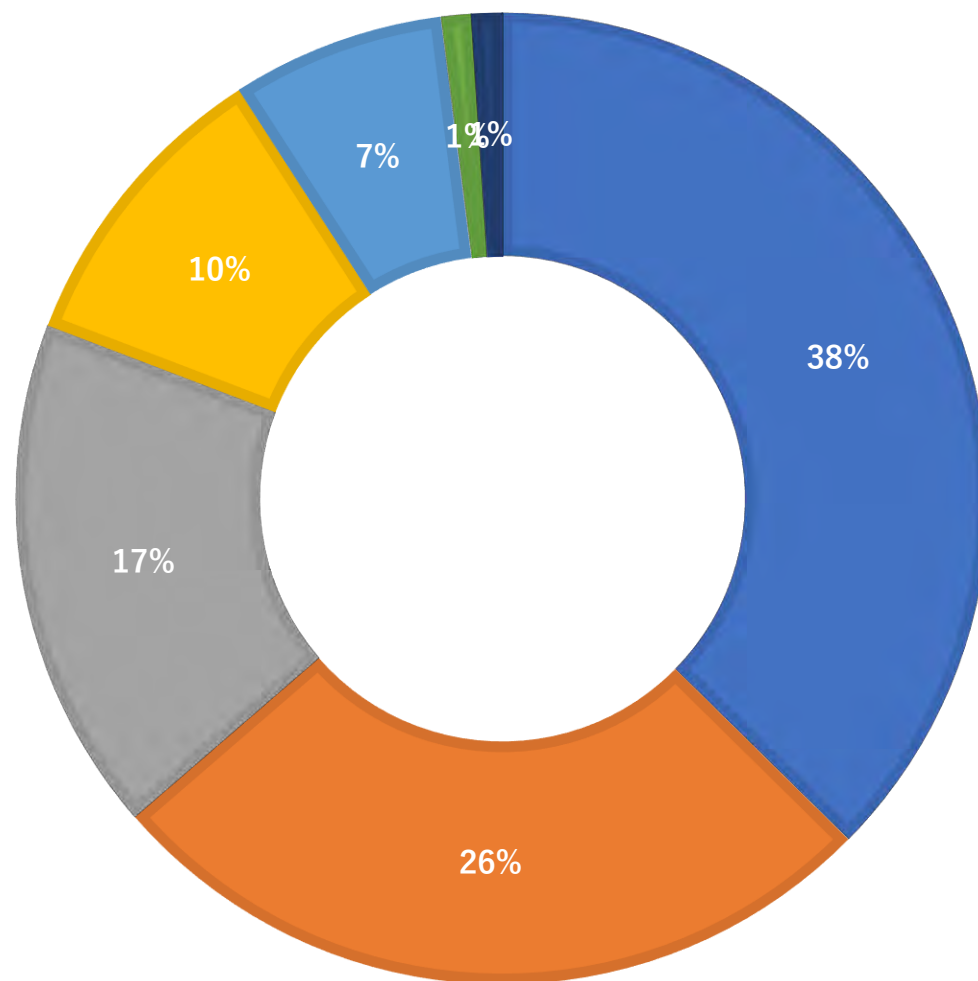
- 土木用材
- 合板用丸太
- 集成材用丸太
- 製紙バイオマス用丸太



R2、出荷地域別内訳（佐久本社のみ）

* 取引先の会社所在地でカウント

■ 関東 ■ 中部 ■ 東北 ■ 九州 ■ 中国 ■ 北海道 ■ 関西

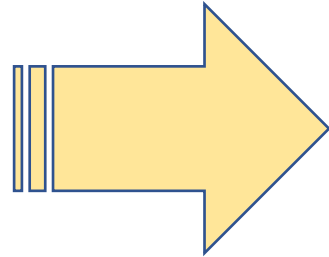


（ご説明の流れ）

- ・ 会社紹介
- ・ 主要国における森林認証の状況
- ・ 現状と今後の課題
- ・ 取り組みと事例紹介

『国毎の認証森林面積の割合』

欧州	80%
カナダ	46%
米国	13%
日本	10%



欧州は戦略的に政府がテコ入れし、認証材でなければマーケットに流通しない状況になっているのに対し、米国や日本は政府が主導していないことと、米国は木材自給率が高く自国完結のため認証がなくても成り立っている。日本は木材の輸入はあるが輸出が少ないなどの事情が足かせになっている

（ご説明の流れ）

- ・ 会社紹介
- ・ 主要国における森林認証の状況
- ・ 現状と今後の課題
- ・ 取り組みと事例紹介

『国内における森林認証制度の現状』

○価格プレミアムへの期待やイメージ戦略で多少の認証取得の動きはあるが成功例少ない

○林野庁は森林認証制度から距離を置いている

○東京オリンピックや大阪万博などのビックイベントは普及の大きなチャンスである（あった）が、動きが限られている

○持続可能な森林経営が標準化しており、違法伐採なども少ない

○輸出が少ないため認証の必要性が薄い

『森林認証が必要になるタイミングは？』（私見です）

○木材の輸出や海外の会社と取引をする場合

○持続可能な森林経営を行っている根拠を証明する必要がある場合

○担い手確保のため教育分野でPRする場合

『認証材普及の今後の課題』

○公共事業での使用など政策的なバックアップ（産地指定だけでなく）

○供給サイドの面的なまとまり（サプライチェーンの形成）

○川上～川下までの連携、情報交換

○我々の意識

- ・PRの仕方、せっかくお金をかけているのであれば使い倒す工夫
- ・日本の常識は世界の常識ではない

（ご説明の流れ）

- ・ 会社紹介
- ・ 主要国における森林認証の状況
- ・ 現状と今後の課題
- ・ 取り組みと事例紹介

有明体操競技場

～オリンピック施設で最大の国産材使用料～

事例 1



佐久・上小地域のSGEC認証森林のカラマツ材が、オリンピック関連施設で世界最大規模となる木構造の梁材に使われました。

オリンピックでは体操・新体操・トランポリン競技、パラリンピックではボッチャが行われた有明体操競技場は、世界最大級の木構造の梁を使用しているのが特徴でアーチ状梁の長さは88メートルにもなります。

そしてこの梁材には、佐久・上小のSGEC認証森林から生産されたカラマツ材が大量に使用されています。

カラマツは強度があり、水にも強いことから、かつては電柱や土木用材を中心に使われてきましたが、乾燥技術や加工技術が進み材木としても成熟した現在のカラマツは、柱、梁などの構造材や集成材、内装材、家具、合板等多くの用途に使われるようになりました。

この施設では、約2,000m³のカラマツ原木が使われていますが、佐久穂町に本社がありCoC認証を取得している(株)吉本が集荷を請け負いました。

《 納材実績と市町村別内訳 》

市町村	材積m ³ （小数第2位）
佐久穂町	649.75
川上村	386.33
北相木村	105.44
南相木村	100.37
小海町	26.00
東御市	420.19
上田市	160.51
長和町	108.32
合計	1956.91

東京都内オフィスビル

事例 2

- ・ 9 階建て
- ・ R5年 1 0 月完成
- ・ SGEC認証丸太275m³出荷 ⇒ ハイブリッド集成材80m³(歩留29%)

福島様邸

～個人別荘でのSGEC認証材活用例～

事例 3



福島様邸

～個人別荘でのSGEC認証材活用例～



福島様邸

～個人別荘でのSGEC認証材活用例～



福島様邸

～個人別荘でのSGEC認証材活用例～

佐久穂町産丸太
115m³



製品33m³
(歩留29%、
内48%の16m³が
SGEC材)

担い手育成のため教育現場での活用

事例 4





我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

- 森林そのものが様々なSDGsに貢献。さらに森林資源・森林空間の利用を通じ、様々なSDGsに貢献。
- これらの利用は、林業・木材産業を通じ、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっている。



出典：
林野庁
ウェブサ
イト

注1：アイコンの下文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。
注2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保障、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの促進等に関連する。ここに記載していない効果も含め、更にSDGsへの寄与が広がることが期待される。

担い手育成のため教育現場での活用

認証広葉樹を用いた木琴製作

樹種:アカマツ、カラムツ、ナラ、クリ、カバ、オニグルミなど23種



グループの総合力を活かす



信州プレミアムカラマツ活用例

～80年を超える大径材は存在感が違う～





家具として利用

～地元のカラマツを使用した家具が普及しつつある～



佐久穂町役場 様

八十二銀行佐久穂支店 様



北相木考古学博物館 様



ご清聴ありがとうございました。